

県立博物館における「利用者」の状況

平成17年10月15日～令和6年3月末日まで

令和6年3月末日現在

○博物館の利用者とは、博物館の施設、提供するサービスを利用した者および博物館の事業・活動に参加したすべての対象者をさす。
 なお、一部の利用については、総計に重複して表れる性質がある。

○ここに示す利用者数は、開館(平成17年10月15日)以来、令和6年3月末日までの状況をまとめている。

総利用者数

4,082,720名

館内利用者

2,154,339名

展示観覧者

1,868,803名

(視察者含む)

常設展示観覧者

(視察者含む)

1,026,419名

企画展示観覧者

(視察者含む)

842,384名

施設利用者

111,895名

(視察者含まず)

資料閲覧室利用者

70,413名

生涯学習室等利用者

41,482名

32

館内事業・サービス利用者

173,641名

各種講演・講座等参加者

32,940名

特別閲覧、写真撮影利用者

6,095名

コピー、デジタル資料サービス利用者

8,996名

イベント参加者

108,947名

わいわいミュージアム

5,506名

かいじあむ検定(H19年度から)

11,157名

県民参画事業参加者

18,441名

收藏品ゆかりの地ツアー

1,421名

交流拠点形成事業(H18年度まで)

357名

館外事業利用者

93,208名

博学連携出前授業受講者

60,731名

出前授業

60,731名

ハブ博物館ネットワーク事業

30,699名

夏休み自由研究プロジェクト参加者

30,699名

ホームページ利用者

1,835,173名

ホームページアクセス件数

1,835,173件

令和6年3月末日現在

■開館から令和5年度までの年度別入館者統計

	館内利用者 (a+b+c)											館外利用者					ホームページ 利用者				
	展示利用者 (a)			施設利用者 (b)			館内事業・サービス利用者 (c)					出前授業等			ハブ博物館 ネットワーク等						
	常設展示 (枚数) (視察)			企画展示 (枚数) (視察)			資料閲覧室 生涯学習室 利用者 等利用者			特別閲覧・コピー・デジタル 資料・ビデオ等 資料・ビデオ等		イベント 参加者		わいわい ミュージアム 検定(館外)		県民参画事業					
	常設展示 (枚数)	(視察)	(枚数)	企画展示 (枚数)	(視察)	資料閲覧室 生涯学習室 利用者 等利用者	特別閲覧・コピー・デジタル 資料・ビデオ等 資料・ビデオ等	イベント 参加者	わいわい ミュージアム 検定(館外)	出前授業等	出前授業等	出前授業等	出前授業等	出前授業等		出前授業等					
R5	94,810	84,798	43,364	1,725	2,484	2,753	1,862	891	7,259	1,432	191	754	4,371	276	235	3,282	2,555	0	0	727	165,507
R4	267,334	85,740	42,870	2,319	3,097	2,982	2,382	600	7,307	1,403	209	387	4,467	400	441	2,044	1,575	0	0	469	169,550
R3	228,571	78,785	34,963	1,709	2,420	2,125	1,423	702	3,265	644	240	377	1,370	470	164	2,988	2,988	0	0	0	146,798
R2	148,754	36,083	20,669	1,345	895	359	67	292	1,882	185	403	102	627	278	287	1,953	1,953	0	0	0	110,718
31・R1	245,078	124,689	51,450	2,805	3,568	5,046	3,200	1,846	9,237	1,602	748	729	5,072	271	815	9,486	4,701	0	0	4,785	110,903
30年度	221,157	111,365	45,437	2,537	43,629	2,605	3,483	2,472	11,202	1,241	818	725	7,253	400	765	8,122	3,862	0	0	4,260	101,670
29年度	236,110	131,264	55,118	2,396	3,422	4,745	3,191	1,554	14,879	1,190	310	728	11,604	240	807	6,646	4,207	0	0	2,439	98,200
28年度	202,665	97,898	41,133	1,959	33,918	2,610	4,836	1,912	13,442	2,105	335	545	9,431	267	759	10,071	4,327	0	0	5,744	94,696
27年度	252,303	155,517	57,879	1,705	77,538	3,536	4,140	1,892	8,827	1,309	306	343	5,673	396	800	5,303	4,434	0	0	869	91,483
26年度	200,624	109,888	47,119	1,130	45,502	2,243	3,609	2,352	7,933	1,139	278	359	5,312	364	481	5,548	4,740	0	0	808	85,188
25年度	213,116	121,898	57,860	1,864	43,886	2,431	6,605	4,067	9,252	1,635	422	453	5,443	468	831	7,220	6,350	0	0	870	83,998
24年度	200,181	107,246	49,341	2,359	37,354	2,410	6,351	2,983	9,431	3,003	306	427	4,633	183	879	7,110	6,077	0	0	1,033	85,825
23年度	200,843	112,026	49,858	3,030	40,232	3,770	5,768	3,354	9,378	2,473	276	402	4,943	166	1,118	4,658	3,721	183	0	754	84,159
22年度	231,370	145,519	56,505	3,281	55,858	8,437	6,137	4,060	15,301	2,937	84	444	11,121	188	527	3,728	2,670	141	0	917	82,123
21年度	233,815	145,172	59,508	1,876	59,780	4,764	6,394	4,399	12,850	3,553	330	488	7,029	231	1,219	5,194	3,871	274	0	1,049	83,449
20年度	169,893	97,551	49,634	1,896	23,785	2,366	8,199	4,754	11,671	1,649	265	549	8,613	143	452	2,781	1,076	180	0	1,525	69,561
19年度	203,261	126,055	66,291	1,602	39,305	1,884	10,422	7,306	6,551	1,515	219	496	3,861	240	220	4,833	1,317	166	0	3,350	72,373
18年度	221,232	149,254	92,277	2,159	31,905	1,515	12,369	7,957	9,029	2,604	263	479	5,213	345	125	1,576	156	195	125	1,100	70,402
17年度	142,814	113,579	66,274	1,172	32,304	18	8,866	5,252	4,945	1,321	92	209	2,911	180	232	665	151	282	232	0	28,570
計	4,082,720	2,154,339	1,868,803	987,550	38,869	787,909	54,475	111,895	70,413	41,482	173,641	32,940	6,085	8,996	108,947	5,506	11,157	1,421	357	30,699	1,835,173

■R5年度の月別統計

	館内利用者 (a+b+c)											館外利用者										
	展示利用者 (a)				施設利用者 (b)				館内事業・サービス利用者 (c)			出前授業	県民参画事業		ハブ博物館 ホームページ 利用者							
	常設展示 (券券数)		企画展示 (観覧)		利用者 (観覧)		利用者 (観覧)		特別開覧・コピードigital 利用者	イベント 参加者	わいわい ミュージアム		かいじあひ 検定	外部主催講座 貸出キット		早慶島ゆかり の地ツアー	交流拠点 形成事業					
	(券券数)	(観覧)	(券券数)	(観覧)	資料閲覧室	生涯学習室他	講座・講演会	写真撮影等 無料サービス利用	特別開覧・コピードigital 利用者	イベント 参加者	わいわい ミュージアム	かいじあひ 検定	外部主催講座 貸出キット	早慶島ゆかり の地ツアー	交流拠点 形成事業	ハブ博物館 ホームページ 利用者						
4月	4,966	4,263	2,154	120	1,803	186	173	139	34	530	336	13	39	142	0	0	200	200	0	0	0	11,032
5月	18,598	5,244	3,900	2,553	152	1,020	175	148	132	1,196	247	11	55	883	0	0	390	371	0	0	19	12,964
6月	14,652	3,315	2,774	2,631	143	0	178	131	47	363	126	28	52	157	0	0	360	360	0	0	0	10,977
7月	32,467	12,582	11,896	5,371	93	6,211	221	242	185	444	177	9	40	218	0	0	733	51	0	0	682	19,152
8月	50,491	26,704	25,003	10,412	267	13,765	559	317	304	1,384	40	14	136	1,194	0	0	81	81	0	0	0	23,706
9月	21,620	6,665	6,226	3,159	100	2,735	232	152	118	287	41	13	74	159	0	0	247	247	0	0	0	14,708
10月	22,532	8,117	7,683	4,169	124	3,163	227	251	166	183	21	22	43	97	0	0	380	380	0	0	0	14,035
11月	25,362	13,086	11,806	5,300	270	5,721	515	254	204	1,026	100	14	71	565	276	0	202	202	0	0	0	12,074
12月	9,787	3,002	2,736	1,318	94	1,069	255	185	66	81	0	8	26	47	0	0	65	65	0	0	0	6,720
1月	16,588	3,163	1,953	1,810	143	0	365	103	262	845	104	14	86	626	0	15	184	184	0	0	0	13,241
2月	16,840	2,906	2,171	1,994	177	0	276	138	138	459	70	19	48	102	0	220	338	312	0	0	26	13,596
3月	18,464	5,060	4,387	2,493	42	1,738	114	212	176	461	170	26	84	181	0	0	102	102	0	0	0	13,302
計	263,599	94,810	84,798	43,364	1,725	37,225	2,484	2,753	1,862	7,259	1,432	191	754	4,371	276	235	3,282	2,555	0	0	727	165,507

令和 5 年度 秋期企画展
「小林一三生誕 150 年 宝塚歌劇の世界 清く、正しく、美しく」
終了報告

1 概要

【内容】

世界中で多くの人を魅了する宝塚歌劇は、蕪崎市出身の実業家・小林一三により始められた。小林一三は、現在の阪急阪神東宝グループの創始者であり、鉄道の多角経営を中心に多くの事業を実現し、大衆文化の発展に大きな役割を果たしている。令和 5 年は、明治 6 年（1873）に誕生した小林一三の生誕 150 年にあたる。この機会に、一三の実業家としての生い立ちに触れつつ、大正 3 年（1914）に初公演を行い、令和 6 年に創立 110 周年を迎えた宝塚歌劇のあゆみや魅力について、多彩な資料や作品とともに紹介した。

【期間】 令和 5（2023）年 10 月 14 日（土）～12 月 4 日（月）
会期日数 52 日（開館 44 日）

【主催】 山梨県立博物館、山梨日日新聞社・山梨放送

【観覧料】 一般 1000（840）円、大学生 500（420）円
※（）内は 20 名以上の団体料金、県内宿泊者割引
※ 常設+企画共通 一般 1260 円、大学生 590 円

【主な展示資料】

「成器社日誌 第 3 号」、「日記（記事録依小林 甲号）」、小林一三筆「甲洲路」、小林一三筆「笹子峠の露宿」、新聞切り抜き帳小林一三著「お花団子（本文、挿絵）」、「公演ポスター「歌舞伎レビュー」（昭和 12 年）」、小林一三筆「「歌舞伎レビュー」に就いて」原稿、小林一三筆「歌劇と歌舞伎」原稿、「宝塚少女歌劇夏季講演曲目（大正 13 年 7 月 宝塚大劇場 月・花両組合同公演）」、「公演ポスター「虞美人」（昭和 26 年）」、小林一三筆扁額「藝又藝」（以上、公益財団法人阪急文化財団）、道具帳「モン・パリ」、衣装デザイン帳「虞美人」、宝塚音楽学校制服、道具帳、公演台本、公演小道具、公演衣装（以上、宝塚歌劇団）、「小説 練絲痕（公私月報第 47 号附録）」（山梨県立博物館）等、98 件。

【関連イベント】

・記念講演会

「小林一三が創った宝塚歌劇 ― 清く、正しく、美しくを世界に」

講師：仙海義之氏（阪急文化財団理事、館長）

11 月 26 日（日） 13：30～15：00 生涯学習室 参加者：39 名

・かいじあむ講座

「文学青年から文化の創造者へ ―小林一三と大衆文化―」

講師：小畑茂雄（当館学芸員）

10 月 15 日（日） 13：30～15：00 生涯学習室 参加者：21 名

- ・あそぼう！まなぼう！寺子屋ひろば

「サンリーのシャンシャンを作ろう」

10月15日（日） 11:00～ かいじあむ寺子屋 参加者：21名

- ・ギャラリートーク

10月22日（日）、29日（日）、11月5日（日）、11日（土）、18日（土）

企画展示室 15:00から1時間程度

【発行物】 図録 A4変形・128頁 800部

2 入場者数

【入館者数】 10,950名（1日平均入館者数：248名）

3 広報

【印刷物】 ・ポスター B2 1,100枚 B3 200枚

・ちらし A4 36,000枚

【マスコミでの紹介】 ・新聞記事（山梨日日新聞 展覧会紹介、連載等）

4 総括

- ・小林一三が阪急阪神東宝グループ、宝塚歌劇の創設者であることはよく知られているが、山梨県出身であることは知らなかったとの声もあり、本県出身の小林一三の大衆文発展に果たした役割の大きさについてあらためて認識を促すことにつながった。
- ・小林一三と宝塚歌劇の関わりについて、歴史的な経緯をわかりやすくまとめた映像に加え、現在の宝塚歌劇や公演を紹介する映像を展示に交えることにより、一三が創設した宝塚歌劇の世界観をよりわかりやすく伝える内容とすることができた。
- ・展示室内に、想定順路にレッドカーペットを敷き込むことにより、順路サインを軽減するとともに、展示室内で宝塚歌劇の世界観を効果的に表現することにもつながった。
- ・展示内に一部撮影可能なコーナーを設置することにより、来館者のニーズに応えるとともに、SNSなどでの発信を促すことにもつながった。
- ・一部の来館者が複数回来館するなど、リピーターが目立った。
- ・韮崎市ならびに韮崎市教育委員の後援を得、双方の小林一三関連イベント等において相互に広報するなど連携をはかった。
- ・宝塚歌劇団の事情により、歌劇団から発信される広報などが削減され、想定した広報効果が得られず、集客に影響があったと思われる。

令和5年度 シンボル展
「帰ってきた芳年の道祖神祭幕絵 往時の姿 今蘇る」 終了報告

1. 概要

【内容】

江戸時代の甲府城下町では、小正月の道祖神祭りを数百枚にもおよぶ「幕絵」が華やかに彩っていた。浮世絵師の月岡芳年が描いた「幕絵」もそのうちのひとつであり、太閤記の一場面が勇壮な筆遣いで表されている。この展覧会では、令和3・4年度にかけて解体修理をおこない往時の姿がよみがえった本資料について、修理でわかった新情報なども含めて紹介するとともに、初代広重、二代広重の幕絵についてもあわせて公開した。

【期間】 令和6年1月20日（土）～2月19日（月）

会期日数31日（開館日数27日）

【主催】 山梨県立博物館

【観覧料】 一般520（420）円、大学生220（170）円

※（ ）内は20名以上の団体料金、県内宿泊者割引

【主な展示資料】

歌川広重筆「諸国祭礼尽双六」（個人蔵）、歌川広重筆「甲府道祖神祭幕絵 東都名所 目黒不動之瀧」（山梨県指定文化財、当館蔵）、二代歌川広重筆「甲府道祖神祭幕絵 東都名所 洲崎汐干狩」（山梨県指定文化財、当館蔵）、月岡芳年筆「甲府道祖神祭幕絵 太閤記 佐久間盛政羽柴秀吉を狙ふ」（当館蔵）、月岡芳年筆「新津清右衛門正光像」（個人蔵）、月岡芳年筆「月百姿 武田信玄」（当館蔵）、歌川国芳筆「甲府八日町正月初売之景」（当館蔵）、歌川国芳筆「菓子袋」（『升太の広告集』所収）（当館蔵）、中沢年章筆「富岳凶扇面」（当館蔵）等
総数45件

2. 関連イベント

○かいじあむ講座「芳年の幕絵～修理を経て見えた姿～」

日時：令和6年2月3日（日）13：30～15：00

場所：生涯学習室

参加者：25名

○ギャラリートーク

日時：令和6年1月21日（土）、2月17日（土）

15：00～15：30

場所：企画展示室

○かいじあむ寺子屋広場

「オリジナルミニ「幕絵」を作ろう」

日時：1月21日（日）

場所：エントランスロビー

参加者：11名

「幕絵」を楽しもう」

日時：1月28日（日）

場所：常設展示室・企画展示室

参加者：8名

「幕絵」のとびだすカードを作ろう」

日時：2月4日（日）

場所：かいじあむ寺子屋（常設展示室内）

参加者：10名

「諸国祭礼尽双六」で遊ぼう」

日時：2月11日（日）

場所：かいじあむ寺子屋（常設展示室内）

参加者：15名

「オリジナル紙芝居「甲州文庫物語—変わり者の功刀亀内—」

日時：2月18日（日）

場所：かいじあむ寺子屋（常設展示室内）

参加者：11名

3. 入場者数

【入館者数】 2,655 名（1日平均入館者数：98名）

4. 刊行物・広報

【刊行物】 ・リーフレット A4版・4頁 3,000部（無料配付）

【広報】 ・ポスター B2 600枚

・ちらし A4 20,000枚

【マスコミでの紹介】

・新聞記事（山梨日日新聞 掲載など）

5. 総括

- ・出光美術館の文化財修理助成を受け、令和3・4年度にかけて修理をおこなった月岡芳年筆「甲府道祖神祭幕絵 太閤記 佐久間盛政羽柴秀吉を狙ふ」について、修理後初のお披露目の展覧会となった。なお、本展終了後、開催報告を出光美術館には提出した。
- ・芳年の幕絵を展示の主役とし、歌川広重筆「甲府道祖神祭幕絵 東都名所 目黒不動之瀧」（山梨県指定文化財）、二代歌川広重筆「甲府道祖神祭幕絵 東都名所 洲崎汐干狩」（山梨県指定文化財）についても同時公開をした。なお、現存が確認されている3枚の幕絵を同時公開するのは初めてのこととなる。
- ・展示構成としては、甲府城下における道祖神祭りや、幕絵について関連資料を通して紹介したほか、国芳による「菓子袋」など、甲府の商家と江戸の浮世絵師たちとの関わりのなかで生み出された資料についても紹介した。また、幕絵の修理工程などについても

パネルでまとめ、修理で用いた素材などともにご覧いただいた。

- ・関連イベントとしては、修理の詳細について担当学芸員がかいじあむ講座で紹介したほか、こども向けのイベントなどを中心に複数回実施した。
- ・今回の展覧会で紹介した内容も踏まえた上で、令和6年度末に芳年の幕絵の修理報告書を刊行予定となっている。

令和 5~6 年度 春期企画展
「富士川水運の 300 年—物流と文化の大動脈—」
終了報告

1 概要

【内容】

江戸・大坂への年貢米輸送を主な目的として、慶長年間に角倉了以によって開削された富士川水運（舟運）は、江戸時代を通じて、甲斐・信濃の人々の生活を支える物流の大動脈とった。明治維新により政治・社会が大きく変わるなかで、富士川水運はますます重要な物流ルートとなり、明治 20 年代には最盛期を迎え、人々の往来による文化の発展や、多様かつ大量の物資を内陸地域にもたらした。

本展は、富士川水運が物流の主要ルートとなる 17 世紀初頭から、終焉を迎える 20 世紀前半に至るまでのおよそ 300 年間の歩みについて、多様な資料から紹介する展覧会とした。

【期 間】 令和 6 年 3 月 1 6 日（土）～5 月 6 日（月）
会期日数 5 2 日（開館日数 4 6 日）

【主 催】 山梨県立博物館、山梨日日新聞社、山梨放送

【後 援】 富士川町教育委員会、身延町教育委員会、朝日新聞甲府総局、NHK 甲府放送局、エフエム甲府、エフエム富士、産経新聞甲府支局、テレビ朝日甲府支局、テレビ山梨、毎日新聞甲府支局、山梨新報社、山梨中央銀行、読売新聞甲府支局

【協 力】 日本通運株式会社、山梨交通株式会社

【協 賛】 日本ネットワークサービス

【観覧料】 一般 5 0 0（4 0 0）円、大学生 2 5 0（2 0 0）円

※（ ）内は 2 0 名以上の団体料金、県内宿泊者割引

※ 常設+企画共通 一般 8 2 0 円、大学生 3 7 0 円

【主な展示資料】

角倉了以像（大悲閣千光寺、瑞泉寺）、襖絵「富士川沿岸戸坂橋天神ヶ瀧ノ積雪」（富士川町教育委員会）、水行直仕方図絵（富士川町指定文化財、富士川町教育委員会）、富士川絵図（個人蔵）、紀州蠟燭看板（個人蔵）、鰍沢河岸跡出土品（山梨県立考古博物館）、駿州清水湊絵図（静岡市歴史博物館）、富士川曳舟蒔絵碗（個人蔵・フェルケール博物館寄託）、高瀬舟模型（身延町教育委員会、富士川町教育委員会）、石丸岳水「富士川の曳舟」（富士川町教育委員会）、村田和夫氏撮影写真（富士川町教育委員会）等 114 件。

【関連イベント】

○講演会

「文政四年の鰍沢大火が炙り出したもの—鰍沢河岸存亡をめぐる勘定奉行の御白州へ—」

講師：村石眞澄氏（富士河口湖町史編纂室長）

日時：4月28日（土） 13：30～15：00
場所：生涯学習室
参加者：106名

○かいじあむ講座

第1回「富士川水運が運んだもの」
講師：中野賢治（学芸員）
日時：3月24日（日） 13：30～15：00
場所：生涯学習室
参加者：71名

第2回「富士川水運と身延線」
講師：小畑茂雄（学芸員）
日時：3月30日（土） 13：30～15：00
場所：生涯学習室
参加者：60名

○学芸員によるギャラリートーク

日時：3月16日（土）、4月13日（土）、21日（日）、5月3日（金・祝）
14：00～15：00
場所：企画展示室

○鰍沢ウォーキング

日時：4月20日（土） 10：00～12：00
場所：富士川町鰍沢周辺
参加者：24名（山梨日日新聞、NHK甲府放送局の取材あり）

【刊行物】 図録 A4版・96頁 800部（ショップ販売分を除く）

2 入場者数

【入館者数】 7,498名（1日平均入館者数：163名）

3 広報

【印刷物】 ・ポスター B2 1,000枚 B3 200枚
・ちらし A4 30,000枚

【マスコミでの紹介】 ・新聞記事（山梨日日新聞 展覧会紹介、連載等）
（朝日新聞 展覧会紹介）
・テレビ番組（YBS「海と日本プロジェクト in やまなし」他）
（NHK 展覧会紹介と鰍沢ウォーキングの2回）

4 総括

・令和2～4年度に実施した博物館の共同研究「富士川舟運の基礎的研究」と、1990～2000年代に実施された鰍沢河岸跡の発掘調査の成果を中心に、富士川水運の歴史と、鰍沢など三河岸の発展等について、古文書・出土資料・絵画などから多角的に紹

介した。

- 三河岸の地元である富士川町・富士川町教育委員会と連携し、展示資料や広報、イベント（鵜沢ウォーキング）等で相互協力を図った。
- 展示の目玉のひとつとして、京都に所在する「角倉了以像」2 軀の出品交渉を早期に行い、許可を得ることができた。
- 図録はミュージアムショップ販売分として、会期中に 500 冊近い売り上げを記録し、関連グッズも富士川町内の菓子販売店の商品を中心に好評を得た。
- 地域密着型の展示となった一方、内容は地味なもので、集客の面で苦戦も予想されたが、総入場者数は、この時期の同種の企画展としては比較的堅調な数字となった。来館者には富士川流域の居住者や、かつて水運に携わった家の方も多かったという感触を得ており、地域に密着した展示の重要性を再認識することができた。
- 1 日あたりの入館者数を月別にみると、3 月は 132.2 人/日、4 月は 134.9 人/日、5 月は 356.3 人/日で、日を追うごとに関心が高まり、GWの集客につながったものと考えられる（GW期間であった 4/27-5/6 の 1 日平均は 316.3 人）。一方で会期前半の人出は課題として残り、SNS 等を活用して開会前から関心を高めていくなど、広報の工夫がさらに必要であると考えられる。

資料・情報委員会の答申状況について

1. 令和5年度 資料・情報委員会委員一覧(50音順、敬称略)

氏名	専門分野	肩書
新井 勝紘	日本近代史	元専修大学教授
黒田 基樹	日本中世史	駿河台大学副学長
小島 孝夫	民俗学	成城大学教授
鈴木 卓治	情報工学	国立歴史民俗博物館教授
鈴木 麻里子	日本美術史 (彫刻)	山梨県文化財保護審議会委員
内藤 正人	日本美術史 (絵画)	慶應義塾大学教授
新津 健	考古学	元山梨県埋蔵文化財センター所長
西村 慎太郎	日本近世史	国文学研究資料館教授

※任期は2年間 (R4.4.1~R6.3.31)

2. 令和5年度 第2回(通算第37回)の開催状況

【開催日時】 令和6年3月22日(金) 14:00~16:00

【出席者】 新井勝紘委員・小島孝夫委員・鈴木卓治委員・鈴木麻里子委員長代理・
内藤正人委員・新津健委員長・西村慎太郎委員

※黒田基樹委員は欠席

【審議内容】

(1) 資料の収集について

6件(64点)の収集資料候補(購入・寄贈・寄託)についての審議を行い、
すべて収集が適正であると決議された。

【審議資料】

(1) 購入 3件

1	肉筆扇面絵 中澤 年章筆	3点	山梨出身の浮世絵師、中澤年章による新出の扇面絵。 年章は浮世絵師の月岡芳年に師事し、東京で作画活動 をおこなった後山梨に戻った。肉筆画を中心に県内に 作品を残している。本扇面絵についても、おそらく県 内で制作されたものと考えられる。
---	-----------------	----	--

2	名高百勇傳 武田 信玄 歌川国芳筆	1点	浮世絵師の歌川国芳による、著名な武将らを描き出したシリーズのうち、武田信玄を描いたもの。信玄が法衣武者姿で表されている。国芳は武者の姿を描くことを得意とし、信玄の錦絵については他にも残している。
3	更新ゆかた写真広告	4点	岡島百貨店(3点)とおふどう呉服店(1点)のゆかたおよび夏向帯地の広告

(2) 寄贈 2件

1	下條南割村千野家 資料	4点	巨摩郡下條南割村(韮崎市)で近世には代々名主を、明治には龍岡村の戸長を務めた千野家に伝えられた資料。昭和58年に県立図書館に寄贈され、平成17年に県立博物館に保管転換された資料群「千野家文書」と一体をなすもの。千野家の系図2巻と幅広位牌2基。
2	米倉地区の葬儀祭壇	一式	旧八代町米倉区区有の葬儀祭壇。平成5年(1993)購入のもので、二代目にあたるという。初代の祭壇は昭和30年代に購入した。

(2) 寄託 1件

1	I家資料	51点	中畑村(現甲府市中畑町)の村役人を務めたI家に伝わった古文書。武田家朱印状、徳川家郷中定書のほか、年貢割付状を中心とした近世文書と武田神社創建に際する展覧会の近代資料を含む
---	------	-----	--

令和5年度「みんなでつくる博物館協議会」の開催状況について

1. 第1回開催状況

【日時】 令和6年5月15日（水）13時30分～15時30分

【場所】 山梨県立博物館 生涯学習室

【出席者】

（委員）古屋真弘委員長、出澤忠利委員長代理、浅川初美委員、安達義通委員、
工藤麻子委員、鞍打大輔委員、佐野隆委員、白井秀典委員、戸田達昭委員、
中原優子委員、成澤治子委員、宮川隆明委員、
（文化振興・文化財課）保坂和博文化企画指導監、
（事務局）守屋正彦館長、岡田孝秀副館長、前田正一郎総務課長、
石神孝子企画交流課長、近藤暁子学芸課長、稲田正徳総務担当リーダー、
丸尾依子企画交流担当リーダー、小畑茂雄学芸担当リーダー、清水真一主幹、
熊谷悠哉副主査、千原鴻志学芸員、

【内容】 1. 令和6年度のスケジュールについて
2. 県民参画事業について
①. R5年度実施状況およびR6年度計画の報告
②. R7年度以降の事業についての問題提起と内容変更の検討
R7年度以降の事業について、検討部会の立ち上げを承認。
事業内容の詳細は7月から12月にかけて部会において検討予定。

韓国・国立清州博物館との交流展示に関する了解覚書の締結について

1. 経緯

- 平成20年に清州博物館との間で学術交流協定を締結する（～平成25年）。以降、第2次（～平成28年）、第3次（～令和元年）、第4次（～令和4年）と協定期間を更新し、現在は第5次協定期間（～令和7年12月）中である。
- 平成25年から令和元年度まで、各館とも各年2名ずつ職員が相手国を訪問し、調査・視察をおこなってきた。
- 協定締結から10周年となる平成30年には、清州博物館において学術シンポジウム「忠清北道と山梨県の中世仏教文化」を開催した。
- 令和2～4年度は、新型コロナウイルスの影響で交流事業を中断したが、令和5年度から再開。令和5年9月に清州博物館の職員が山梨を訪問、同年12月に当館職員が清州博物館を訪問した。
- 交流事業再開に際して、清州博物館から2025年（日韓国交正常化60周年）に山梨の歴史・文化を紹介する特別展開催を希望していること、2026年以降には山梨において忠清北道を紹介する展示を開催することについて打診を受けた。当館としても相互に協力して展示を開催することについて同意した。
- 令和6年4月24日、清州博物館のイ・ヤンス館長らが来館し、守屋館長と「日韓国交正常化60周年記念交流展示に関する大韓民国国立清州博物館と日本国山梨県立博物館の間の了解覚書」を締結した。

2. 覚書の内容

- 2025年に国立清州博物館において特別展「山梨の歴史と文化(仮題)」を開催し、2026年以降に山梨県立博物館において「忠清北道の歴史と文化(仮題)」を開催するにあたり、両館が相互に協力して展覧会を開催することを確認する。
- また、特別展開催以降も、両館相互の資料貸借について検討を進めることを確認する。

3. 今後の対応

- 当館収蔵資料から、清州博物館への出品候補資料を選定する。
- 山梨県立考古博物館ほか県内の諸機関へ協力を依頼する。
…考古博物館については協定締結の日イ・ヤンス館長とともに訪問して協力を要請し、高橋館長からご快諾をいただいた。
- 清州博物館職員による資料調査への対応等